

# 弁理士とメガネ

● 会員 山下 託嗣  
弁理士と〇〇 Series 1

先日、事務所の4人でソウルへ出張に行ったときのこと。

時間があつたので少し観光することになった。ベテラン弁理士のOさんがメガネを買うと言うので、一同揃ってメガネ店へと向かった。Oさんは幾つかのメガネを試着し、他の人たちもそれぞれメガネを見ているが、私はどうも落ち着かない。裸眼1.5の視力の私にとって、メガネ店はあまり馴染みのない場所であり、ほとんど用の無い場所だからだ。私は、メガネ店のガラスケースから離れた場所に座ってボーとしていた。しばらくたって、Oさんはあるメガネを気に入り、それを購入した。後で気が付いたのだが、他の人たちも普段はコンタクトをしているだけで、実はメガネを所有していた。そう、4人中3人がメガネを所有しており、メガネ率は実に75%であった。

考えてみると、この仕事は非常に目を酷使していると思う。特許や実用新案をメインの業務としている弁理士は特に、一日中、パソコンの画面を睨みキーボードを叩いて明細書を作成している。コンピュータ関連の仕事をしている人ももちろんそうだろうが、負けないうらいパソコンの画面を長時間見ている。また、公報をネットで読んだり、プリントアウトしたものを読んだりする。プリントアウトした公報は文字が細かく詰まっっていて、読んでいて目が特に疲れる。

私以外の3人がメガネを所有していることと、この仕事を始めたこととは、たぶん無関係だろう。しかし、私は、弁理士になってこの仕事を始めてから目の疲れがひどくなったと思う。以前の仕事よりも目を使うことが増えたことは間違いない。このため、視力の低下が非常に気になっている。現時点で特に悪化しているわけではないのだが、目の疲れのために視力が落ちて来るのではないかと心配になる。もしかするとメガネをかけることになるのでは……、それではメガネ率が100%に……。

そこで、私は、目のためになる幾つかのことは行うことにした。例えば、デスクの横に観葉植物を置いて時々眺める。目薬を常備して目が疲れたら目薬をさす。窓の外から遠くを眺める。ワープロソフトの入力画面を黒にする……などなど。おかげで目の疲れが少しはマシになった気がする。他にも目の疲労防止によるものは色々あるようで、TVではブルーベリーがよいといっていた。

そういえば視力に関する発明は数多くあるのだろうなと思い、データベースで公報を検索してみる。視力検査表、視力測定装置、視力回復……、視力疲労防止……、数百件がヒットした。TVで見たことのある視力回復方法などが公報に載っている。ふむ、面白い。調子に乗って他の公報もずっと見ていると、だんだん目が疲れてきた。いかん、目薬、目薬。とりあえず目に優しいパソコンと公報が欲しいと思う。